

「パウロ、アグリッパ王に信仰を勧める」

2016年10月01日

使徒言行録 26章 24節～32節 パウロがこう弁明していると、フェストゥスは大声で言った。「パウロ、お前は頭がおかしい。学問のしすぎで、おかしくなったのだ。」パウロは言った。「フェストゥス閣下、わたしは頭がおかしいわけではありません。真実で理にかなったことを話しているのです。王はこれらのことについてよくご存じですので、はっきりと申し上げます。このことは、どこかの片隅で起こったものではありません。ですから、一つとしてご存じないものはないと、確信しております。アグリッパ王よ、預言者たちを信じておられますか。信じておられることと思います。」アグリッパはパウロに言った。「短い時間でわたしを説き伏せて、キリスト信者にしてしまうつもりか。」パウロは言った。「短い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになってくださることを神に祈ります。このように鎖につながれることは別ですが。」そこで、王が立ち上がり、総督もベルニケや陪席の者も立ち上がった。彼らは退場してから、「あの男は、死刑や投獄に当たるようなことは何もしていない」と話し合った。アグリッパ王はフェストゥスに、「あの男は皇帝に上訴さえしていなければ、釈放してもらえただろうに」と言った。

パウロは総督フェストゥスの謁見室でアグリッパ王に弁明する機会を得た。パウロは、神が先祖に与えた約束は主イエスが死者の中から復活した出来事において実現していると、自分の体験を語った。キリスト信者を迫害していた最中、復活した主イエスに出会った。そして主イエスは、私を復活の証人として立たせ、十字架と復活に啓示された救いを全ての人々に宣べ伝えるように使命を与えられた。私はその使命を全うしたいと懸命に宣教してきた。ユダヤ教徒に対しても、皇帝に対しても何の罪も犯していないと弁明した。

パウロの弁明を聞いていたフェストゥスは大声で、「パウロ、お前は頭がおかしい。学問のしすぎで、おかしくなったのだ」と横やりを入れた。パウロは、「フェストゥス閣下、わたしは頭がおかしいわけではありません。真実で理にかなったことを話しているのです」と反論した。そして、アグリッパ王はユダヤ人であるから、これらのことについてよくご存じのはずである。主イエスの十字架と復活は片隅で起こったのではないので、十分、ご存じであると確信していると訴えた。そして、アグリッパ王に対し、「預言者たちを信じておられますか。信じておられることと思います」と呼びかけた。アグリッパはパウロに、「短い時間でわたしを説き伏せて、キリスト信者にしてしまうつもりか」と苦笑しながら、答えた。パウロは、時間の長短ではなく、また、王ばかりでなく、私の話を聞いた全ての方々が、私のような信仰者になることを神に祈る。このように鎖につながれることは別であるがとユーモアを交えて、アグリッパ王を始め、人々に信仰を勧めた。

パウロの弁明を聞いたアグリッパ王は立ち上がった。フェストゥスもベルニケも陪席していた者たちも立ち上がり、退席した。彼らはパウロに罪がないことを認め、「あの男は、死刑や投獄に当たるようなことは何もしていない」と話し合った。アグリッパ王はフェストゥスに、「あの男は皇帝に上訴さえしていなければ、釈放してもらえただろうに」と呟いた。パウロはローマに護送され、2年ほど監禁生活を送り、この訴訟とは関わりなく、60年代、ネロ皇帝の治世に殉教したと伝えられている。皇帝に上訴していなければ、釈放され、暗殺者たちから逃れて、自由の身で念願のローマに行けたかも知れない。